

# 神道夢想流 日本杖道会 会報

第 39 号

発行日 平成 26 年 1 月  
発行人 日本杖道会  
編集人 矢沢 隆行  
印刷所 萩原印刷(株)



## 新年ごあいさつ

新春を寿ぎ謹んでお慶び申し上げます。

昨年はず定されていた行事を無事遂行できました。これはひとえに皆様のご支援の賜物と、厚くお礼申し上げます。

また、二〇二〇年の東京オリンピックの決定、富士山の世界遺産、和食文化の無形文化遺産登録といった世界から日本が目されました件とともに、太宰府の宝満山が国の史跡として認定され、神道夢想流としても喜ばしいことと存じ上げます。今年恒例の諸行事は勿論のこと更なる飛躍をめざし、新規事業等にも積極的に取り組み、大きな成果をあげるよう努力する所存でございますので、東日本大震災の復興と斯道発展のためより一層のご協力を賜りますようお願い申し上げます。

年頭に際し、皆様の益々のご健勝ご多幸を祈念申し上げます。  
平成二十六年元旦

日本杖道会

会長 神之田 常盛

## 平成二十六年スローガン

### 『鍛えよ 技 磨けよ 心 限りなく』

道一筋に生き、人名工、天才等と云われる人達をみると、何れも長い年月にわたって厳しい試練に耐え、その結果、自分の生涯をかける道は、この道以外ないという心境のもと、ついに、その道を極めるに至ったもので、一朝一夕で成し得たものではないと云われている。

いわばこの人達は、一つの事にかけ、事に徹した方達である。

我々には容易にその境地を得る事はできないが少なくとも、己との闘いに負けないだけの粘りと根性は是非身につけたいものである。

私達の日常生活は決して楽ではない。つらい事、苦しい事、くやしい事等数多くあり、そのときは耐え忍ぶか、簡単に投げ出してしまおうか？この何れかによって、人々の道は左右され、人間の評価は決定づけられるものである。

私自身をふりかってみるとき、凡人の悲しさで、いたずらに年を重ねてきた感が強いが、健康で過ごしてこられた事は、この上もない幸せと思っている。私は「汗なき人生は墮落なり」を信条とし、武道研鑽を踏まえた悔いなき日々を送る事をモットーとしてきたからではないかと思う。体力気力の養生は年齢に関わりはなく、特に体力だけは、若くして鍛えなければ、その機を逸する事になる。よく「鉄は熱い内に打て」と云われるゆえんはここにあると思う。何事も自分の目的に向かって実行する事、苦難を乗り越えて耐え忍ぶと云う事は苦難の道であり、苦難や困難をさけて行く道はないのである。

宮本武蔵は五輪の書に「千日の稽古を鍛とし、万日の稽古を練とす」を記し生涯を剣一筋に精進した心構えを端的に表現している。

言葉をかえると我々が杖道を志して千日、つまり三年、これを鍛と言ひ、万日をすなわち三十年を練と言ふ事になる。自己の目的、自分の欲望に打ち勝つためには「日々精進」、誇りは高く「日々前進」。輝け、日本杖道会。

# 宝満山 国の史跡に

(福岡県太宰府 宝満山全景)



宝満山山頂

神道夢想流の開祖 夢想権之助は若き日に真壁(茨城県桜川市)にて神道霞流剣術を納め、小仏峠の関所(東京都八王子市)を通り西へと向かった。最終的に黒田藩(福岡県)に仕官することになるのだが、その前に宮本武蔵と闘い、杖を編み出したことになっている。その杖術の生誕は、福岡県太宰府にある普池の窟がある宝満山である。その宝満山がこのたび国の史跡として平成25年10月17日に登録された。そもそも、福岡県太宰府在住の於保氏より、神之田常盛師範に宝満山が国の史跡に登録されそうだと打診があった。折しも「富士山信仰の対象と芸術の源泉」という名称で富士山が、世界文化遺産として登録された頃(平成25年6月22日登録)である。

平成25年6月21日の文化庁での文化審議会において答申物件の一部(新史跡11件の内7番目として宝満山とある)に申請がある。(左に抜粋)

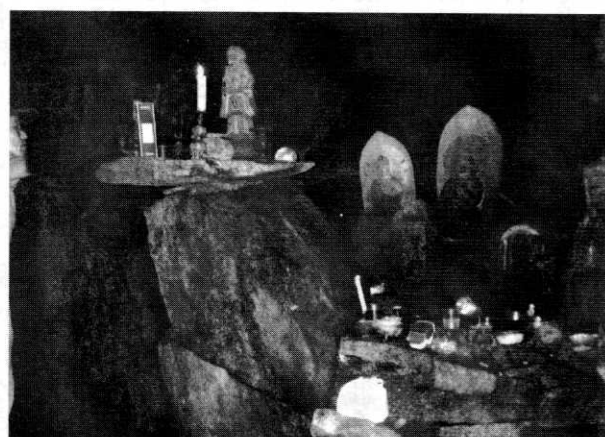
◇◇◇◇◇

7宝満山(福岡県太宰府市・筑紫野市) 大宰府と密接な関係をもつて成立した信仰の山。最澄はじめ入唐の際の祈願が行われた。中世には修験の山として発展し、近世を通じて信仰の山として繁栄した。祭祀跡、「堂」「舎」が良好に遺存。我が国の山岳信仰のあり方を考えるうえで重要である(大宰府と密接な関係の信仰の山。山岳信仰のあり方を考える上で重要。)

以上、文化庁報道資料平成25年6月21日より抜粋

宝満山(標高829・6m)は福岡県筑紫野市と太宰府市にまたがる山であり、別名を御笠山(かまどやま) 竈門山(かまどやま) として崇められ、山頂の巨岩上に竈門神社の上宮があり、修験道の霊峰である。

窟の池普



日本を始め、世界の多くの地域では、山に対する信仰が生まれている(山岳信仰)。富士山を始め主要な山々で山岳信仰が存在し、山岳信仰は特に修験道と結びつき、信仰の興隆に伴い登山者に宿所などを提供する御師が成立した。

民間信仰においても山は異界へ通じる恐れの対象であると同時に、天候や生業に関わる神性な世界としても認識され、山の神や雨乞いなどに山に関する民俗が存在している。

また、山では開祖と呼ばれるような人は修行をおこなっている。一心流鎮鎌術の念慈恩は念流山(長野県下伊那郡浪合阿智村)にて、前述の宮本武蔵では求菩提山(福岡県豊前市)その他においても枚挙にいとまがない。

このように修行の場所としても山が選ばれたことから夢想権之助が宝満山に籠もったものと思われる。

さらに、麓に鎮座する竈門神社の境内には夢想権之助を祭る夢想権之助神社もある。竣工は昭和42年10月24日である。(写真参照) また隔年にて神道夢想流流祖祭を催行している。

神道夢想流杖道にとって大変にゆかりある宝満山は、神道夢想流の宝であり財産でもある。此度の登録は杖を志す者にとっての朗報であった。

